

交信する建築

- 2つの個の記憶を引き継ぐ 400年 東西学習センターの提案 -

神奈川大学工学部 工学研究科 建築学専攻
山崎研究室 大岡 真

文脈

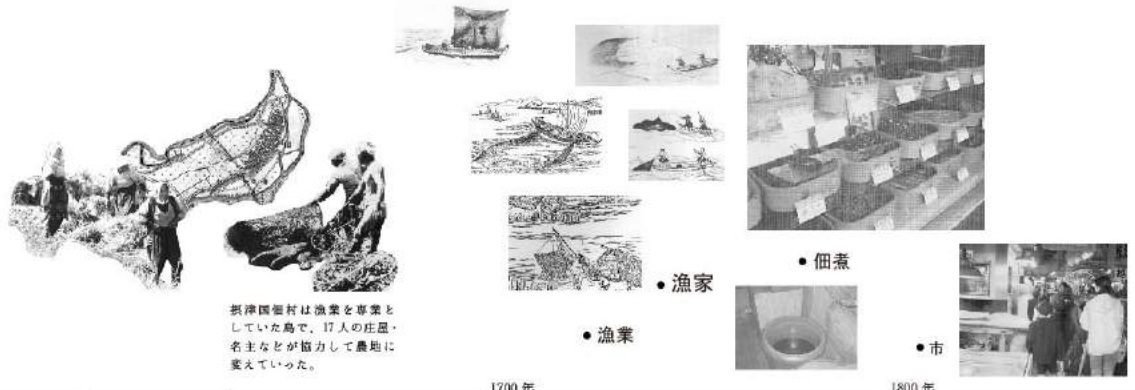
関入

現代都市型大規模開発

- 地割
- 日本型高密度都市型
- 共通の高密居住形態 (住・商・工・漁) 併存
- 低層高密



- 交信する建築 -
2つの個の記憶を引き継ぐ
学習センターの提案



摂津国佃村は漁業を専業としていた島で、17名の庄屋・名主などが協力して農地に変えていった。

漁業

漁家

佃煮

市

1600年

1645年

1700年

1800年

1900年

1960年

2000年

2014年

2018年



摂津国佃村の34名の漁民が佃島に移住して漁師町をつくる。神社の分社が建てられた。



渡し船

町並み

岸壁

地割

祭り

2つの個の交流 約400年



1960年代、70年代の高度経済成長期に都市開発が始まり、都市のイメージが弱されてきた。

学校間交流
150年



中央区立佃島小学校と大阪市立佃島小学校が姉妹校の関係を結んだ。(これが第一回の交代会)

これからの学校間交流

これからの個の交流

研究と提案

- 交信する建築 -

都市に必要な機能と役割は、時間の経過と共に絶えず変化している。日本ではスクラップ&ビルドにより古い建物が解体され、新しい都市の需要を満たすための新しい建築が建設された。このように都市を更新し続けることは、歴史的な記憶や既存の都市の特色を継続する可能性があると考えられる。

本研究では、漁師が島から島へ移り住んだ歴史をもつ大阪府大阪市西淀川区佃と東京都中央区錦を研究対象地と定め、都市の記憶を継承しながら現在と将来の都市の道筋を示す交信する建築を提案する。また、佃島をつなぐ学習センターを東京と大阪の両方の土地に提案することで歴史的な町つながりを再編成する。具体的には、学校間交流を展開する学習センターを計画する。学習センターは、都市に自然災害が起きて移動や避難をしなくてはならなくなった時に避難所として機能する。



「2つの個の関わり」

- 歴史 -

天正年間(豊川家)がまだ淀川流域主だった頃、京都に旅行した際、摂津国多田郡(兵庫川西市)と住吉神社(大阪府住吉区)に参詣した。その時、神崎川取水のために渡船がなくて困っていたと、佃村と隣の大田村の漁民が漁船を出して家来の一行を運してくれた。これが縁となり、家来と佃村漁民との交流が始まった。これにより、慶長17年7月、2代目将軍秀忠の時代になって、摂津西成郡佃村の庄屋である豊後守藤十郎、佃村、大田村の漁民ら32名は家来に呼び寄せられ、江戸に移住した。寛永年間には、佃田川河口、豊後守家の千石百間(約1800㎡)四方の地を幕府より賜った。そして漁民自らの手で佃島の努力をし、正保元年ついに築島を完成させた。

ここに漁家を建て並べ漁民一同引き移り、本國佃島の名をとって「佃島」と名付けた。正保3年には、故郷摂州(大阪市住吉区)の氏神、住吉神社を分社して、「佃島住吉神社」の社殿を建てて遷座した。

このように東京佃島の本家は、大阪の佃であり、東京佃島の住吉神社は大阪佃の佃神社の分社であることから、両方の土地の人々の交流が始まった。



「2つの個の関わり」

- 交代会 -

150年前から現在に至るまで西淀川区の市立佃小学校と東京中央区立佃島小学校が姉妹校の関係を結んで両校の間で交代会を開催して大阪と江戸にわかれた町の子どもたちが交代会を通して活発な文通や図書・書道作品交換をしている。手紙は数百通、作品も数百数十点にのぼる。両小学校は、それぞれ3年生の社会科などで町の由来を教えており、文通を通して両町の歴史を学び、両校の子どもたちはマチの公営や都市開発の課題を考えるまでに至っている。

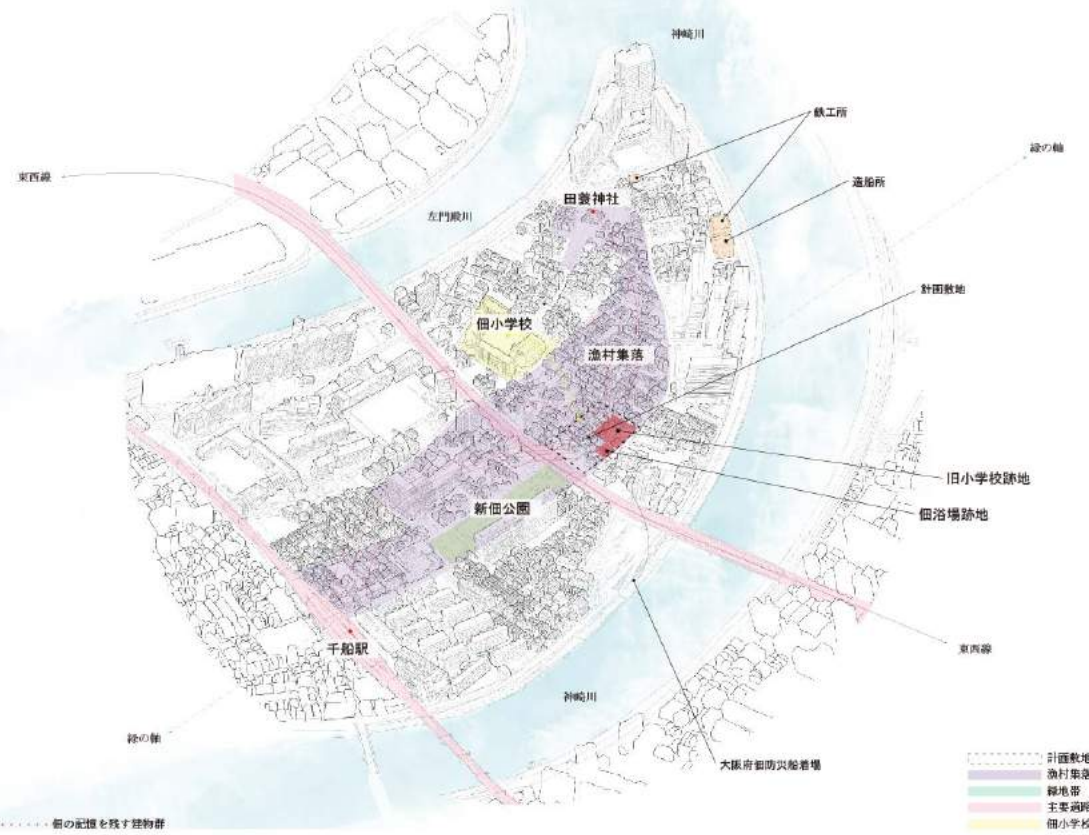


▲阪神淡路大震災で浸水した佃のマチ

▲関東大震災で仮住まいをする月島の人々

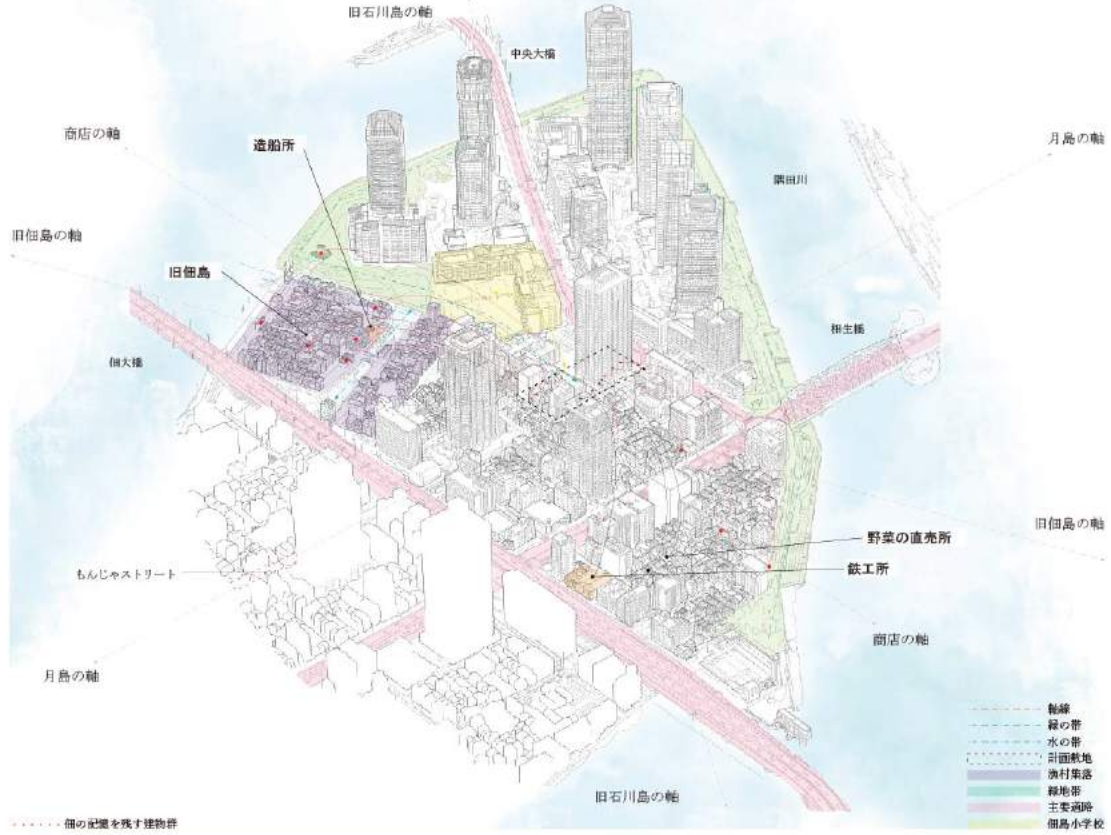
大阪府大阪市西淀川区佃

- 計画敷地及びマスタープラン -



東京都中央区佃

- 計画敷地及びマスタープラン -



佃は、難波八十島の1つで淀川、神崎川のアルタ地帯にあり、アシ、ヨシ、ササの生い茂った小島で田畑の面積が少なく、漁業を専業としていた。そこに土地の開墾を目をつけた17人の庄屋・名主などが協力して農地に替えていった。明治の終わりに大正にかけて1丁目~3丁目に大工場が建設され、農漁村であった佃は次第に工業街化し、急激な人口増をみるようになった。1970年代以降には大工場の撤退に伴い、跡地に高層マンションの建設が進められ古くからの住宅地と中小工場、高層マンションが混在する地域となっている。

本計画敷地は、第1種住居地域と近隣商業地域からなり、東西線の傍で過去に佃小学校や佃集落が存在し、人々の生活の中心の場であった土地を計画敷地とする。漁村ができた頃の街区に沿って敷地内に建築を計画し、敷地の東側道路が元々川であり川を渡るための橋がかけられていたことから道沿いに親水空間を計画した。

現在の中央区佃は、石川島、佃島、新佃島の3つの島から成る。石川島は、佃敷地から人足寄野、監獄署、造船所へと用途を変えた場所であった。佃島は、隅田川河口にできた砂州を利用して正保元年に築成された島で、江戸から昭和初期まで換船町であった場所である。新佃島は、石川島、佃島の地先に位置する場所であり東京中央区の臨海部にある。明治期の東京湾整備事業の際に、新佃島および月島の中央に架設された20間道路を中心に基盤的に走る街区構造が地区レールで実現した場所は、新開地である月島地区独自のものである。月島1、2号地から新佃島、深川、浜地方面へと連続性を意識して街路が整備されている。

本計画敷地では、第2種住居地域であり、地区計画区域に指定されている新佃島の1街区を計画地とする。佃島島の軸を尊重して街区に対して4.5度の軸を振ることを設計に組み込み、土地が造成される以前に流れていた川を元に親水空間を計画した。

「都市空間の単位からヒューマンスケールの記述」

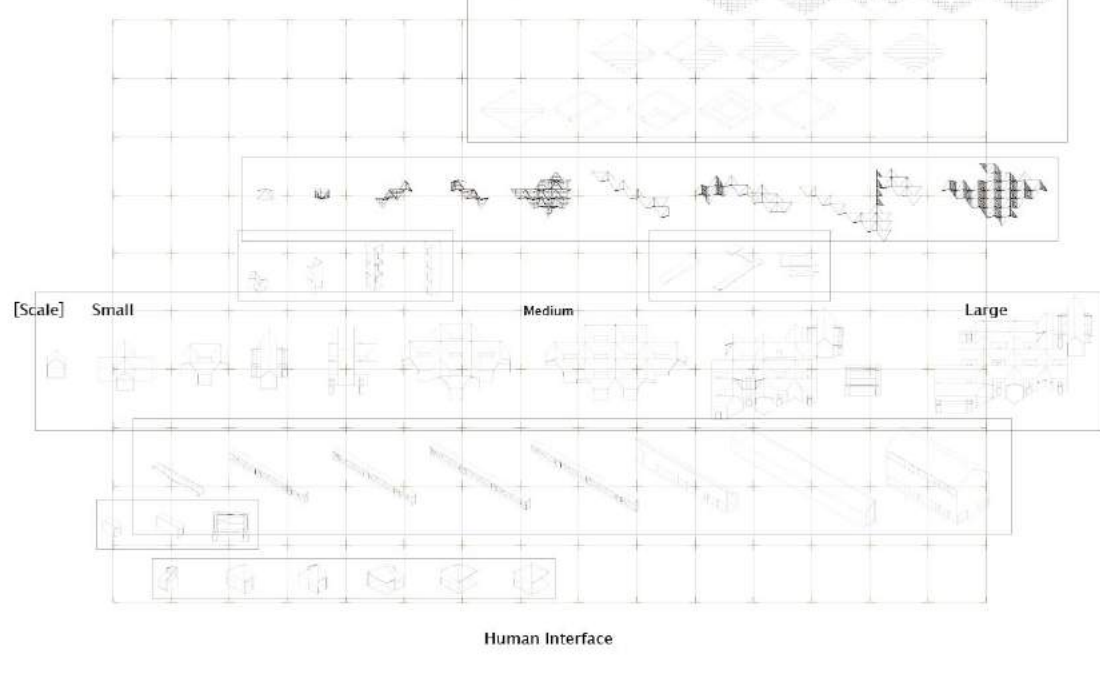
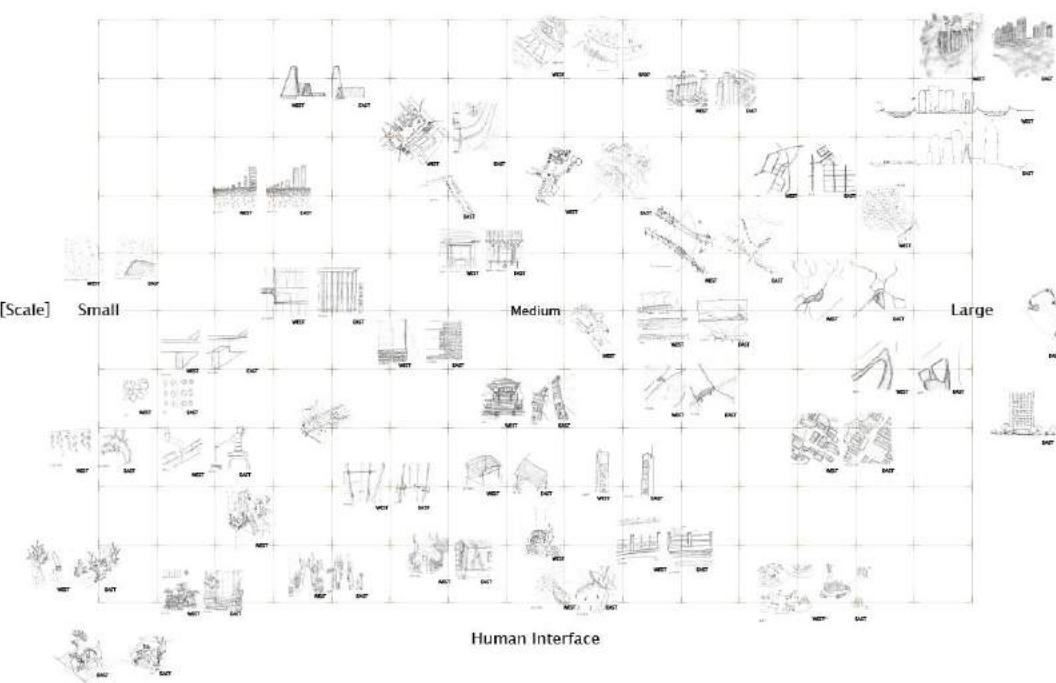
- 大阪府大阪市西淀川区佃と東京都中央区佃のリーサーチ -

「リサーチから形態への記述」

- 形態の空間配列と分類を考える -

Urban Unit

Urban Unit



設計手法

2つの敷地をリーサーチし、共通するものや差異のあるものを記述し、建築空間に当てはめていく作業をした。描いたスケッチで2つの個の特徴的な全体と部分を表している。屋根の形、床の貼り方、墨枠の通り方などでシグナル性を生み出し、街路は交差し合うことや折れ曲がることで都市空間を表出していく。道や動線に生活感。

縦軸をUrban unitとHuman Interfaceとし、横軸にスケールを表しました。これらは敷地に訪れたとき、市空間を参照し、スロープや街路は街を表す。階段室やエレベーターなどのコアが積み重なると都市の中心が生まれ、都市空間の断層やスケールが表れる。ユニットには人の生活感が表れる。

交信する建築とは

交信する建築の空間の移し

交信する建築の空間の引き継ぎ

構造とユニット

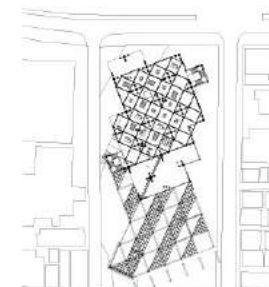
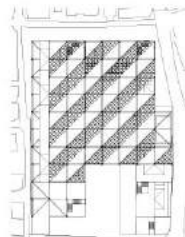
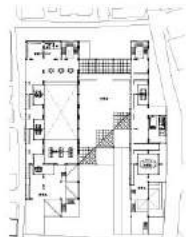


まさに場所の記憶を引き継ぐ建築を”交信する建築”と言う。
都市・建築同士が対応し合う時に建築が交信する。対応し合う時が訪れるのは、片方の都市を離れ他方の都市を訪れた時である。また、都市に自然災害が起きて移転や疎開をしなければならなかった時である。

過去に起きた自然災害を踏まえて、場所の記憶を建築でどのように引き継いでいくことができるのかを考えます。片方の空間を他方の建築に付け加えることで場所は違えど都市空間や建築で過ごした過去の記憶が引き継がれていくのではないかと考えます。

それぞれの建築で体験した空間が組み替えられることで失ってしまった場所の記憶を建築が引き継ぐことを可能とする。そうすることで少しでも街の記憶を喪失し、未来に引き継ぐことで土地の記憶だけでなく建築で引き継いでいくことができると個の記憶を継承して残すことができるのではないかと考える。

鉄骨ラーメン構造を基本とする。3つのパーツから成り、組み合わせることで可変性を生む。構造体に沿ってユニットを組み込むこととユニットの組み込み方を45度変えて組み込むことで多様なスケール感の違いを生み出す。ユニット化された空間の挿入により二層空間を実現している。



大阪 地下平面図 S.1:1200

大阪 1階平面図 S.1:1200

大阪 2階平面図 S.1:1200

大阪 層高伏せ S.1:1200

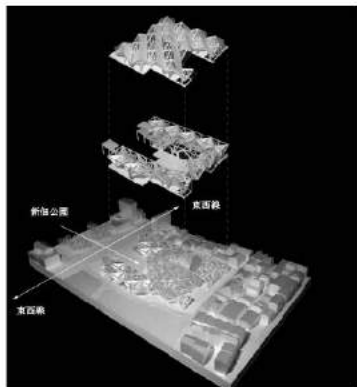
東京 1階平面図 S.1:1200

東京 3階平面図 S.1:1200

東京 5階平面図 S.1:1200

大阪府大阪市西淀川区佃の学習センター
- 記述したもから建築空間を考える -

東京都中央区佃の学習センター
- 記述したもから建築空間を考える -



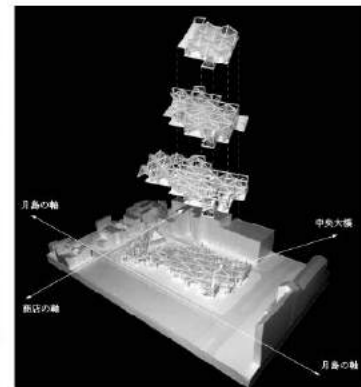
▲大阪府大阪市西淀川区佃の学習センターの概要



▲公園から見た学習センター



▲月島の駒が通る道から見た学習センター



▲東京都中央区佃の学習センターの概要



▲エレベーター前のコミュニティボードと天井の設備空間



▲敷地の内から見たデッキと階段



▲回廊空間から見た図書スペース



▲自然を取り込んだ内部空間



▲2階におけるテラス



▲読書室のトップライト



▲読書真空間で天体観測



▲読室から中央大橋を見る



▲住民者の共用スペース



▲図書スペースから見たテラス



▲通路を横に抜ける広がる街との接点



▲船の展示室



▲路地から見た住居と所蔵を持った佇まい



▲出会いや活動のあるスロープ



▲吹き抜け上部の渡り廊下



▲図書スペースから見たテラス



▲よりしみのある通路空間



▲船の展示室



▲路地から見た住居と所蔵を持った佇まい



▲出会いや活動のあるスロープ



▲車庫と水辺空間



▲開かれたアトリウム空間